

日本におけるインテリアに関する資格制度についての一考察

茂 木 弥生子*

Study of the Qualifications related to Interior Design in Japan

Yayoiko MOTEGI*

Abstract

Recently Japanese people's lifestyles have diversified, and interest in housing and interior design has risen. Knowledge of housing and interior design has improved due to the availability of information on TV, in magazines, and on the Internet. The residential real estate market has converted from new to renovated buildings, so it is necessary to improve the quality and performance of existing housing. Experts in this industry are required to respond to changing consumer requests. This paper describes the professional qualifications related to interior design based on their purpose, year of establishment, content, and level of recognition. This study investigated 26 professional qualifications related to interior design in Japan. Professional qualifications related to interior design have been diversifying since the 1990s. The number of qualifications focusing on the viewpoint of the consumer increased in the 2010s. The number of professional qualifications awarded increases every year; however, the examination contents and requested functions of many qualifications show a great deal of overlap. There is concern that consumers will lose trust in interior design qualifications due to the flooding of qualifications. It is necessary to create a qualification system to authenticate trustworthy experts in the future.

1. はじめに

昨今、人々のライフスタイルが多様化し、住宅やインテリアに対する関心は高まっている。テレビや雑誌、インターネット等のさまざまな媒体で取り上げられる機会も多く、生活者の知識レベルも向上している。

また、住宅市場は新築中心から、リフォーム・リノベーションにより住宅ストックの品質・性能を高めて使用する循環型へと転換が図られており、国も具体的な施策を掲げている。実際に

リフォーム・リノベーションして付加価値の高い住宅へと再生した事例には、多くの関心が寄せられている。建物の構造部を変更しないこうした手法が一般化することにより、インテリアの重要性が高まっている。

今後、インテリアに関する市場がこれまで以上に活性化し、ますます多様化するニーズに応えるためには、専門家の活躍が必要不可欠である。インテリアに関する専門資格には、「建築士」や「インテリアコーディネーター」をはじめ数

*駒沢女子大学 人文学部 住空間デザイン学科

多く存在しているが、その職能や職域の違いについて、生活者にとっては分かりにくい側面も多い。そのため、どのようなケースにどのような専門家に相談するべきか、迷うことも多い。専門家にとっても、その専門性を的確に活かすための出会いと場が必要である。

既報¹⁾においては、日本におけるインテリア関連の団体に着目してインテリア業界の変遷についての調査をおこない、21世紀に入り団体や専門資格が複雑化しており、生活者にとって

混乱を招きやすい状況が生じていることがわかった。そこで、本報告ではさらにインテリアに関する専門資格に着目してインテリア業界の変遷を明らかにするために、専門資格の設立年代や内容、認定方法等を整理して、その特徴や違いを分析・考察する。

2. 調査方法

(1) 調査対象の選定

インテリアに関する資格のうち、設計やデザ

表1 インテリアに関する資格制度一覧

	資格名	実施団体	ホームページ
1	建築士	公益財団法人 建築技術教育普及センター	http://www.jaeic.or.jp/k-seidozenpan.htm#1
2	インテリア設計士	一般社団法人 日本インテリア設計士協会	http://www.jp-interior.or.jp/examination.html
3	商業施設士	公益社団法人 商業施設技術者・団体連合会	http://www.tocs.or.jp/
4	照明コンサルタント	一般社団法人 照明学会	https://www.jelj.or.jp/educate/
5	インテリアコーディネーター	公益社団法人 インテリア産業協会	https://www.interior.or.jp/examination/ic_intro/
6	インテリアデコレーター (ID=内装士)	日本室内装飾事業協同組合連合会(日装連)	http://www.nissouren.jp/work/examination/index.html
7	DIYアドバイザー	一般社団法人 日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会	http://www.diy.or.jp/diy-ad/diy-test/test-guide.html
8	増改築相談員	公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター	https://www.chord.or.jp/course/zokaichiku_01.html
9	インテリアプランナー	公益財団法人 建築技術教育普及センター	http://www.jaeic.or.jp/shiken/ip/index.html
10	キッチンスペシャリスト	公益社団法人 インテリア産業協会	https://www.interior.or.jp/examination/ks_intro/
11	色彩検定	公益社団法人 色彩検定協会	http://www.aft.or.jp/
12	マンションリフォームマネージャー	公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター	https://www.chord.or.jp/course/reform_manager_01.html
13	色彩士検定	特定非営利活動法人 全国美術デザイン教育振興会	http://www.colormaster.jp/
14	ライフスタイルプランナー	一般社団法人 輸入住宅産業協会	http://www.ihio.or.jp/2_lifestyle/life1_what.html
15	福祉住環境コーディネーター	東京商工会議所	http://www.kentei.org/fukushi/
16	整理収納アドバイザー	一般社団法人 ハウスキーピング協会	http://housekeeping.or.jp/explains/index/00087
17	TALK食空間コーディネーター	特定非営利活動法人 食空間コーディネート協会	http://www.talk-tcs.gr.jp/shikaku/
18	リビングスタイリスト	一般社団法人 日本ライフスタイル協会	http://www.lifestyle.or.jp/ls/about.html
19	カラーコーディネーター	東京商工会議所	http://www.kentei.org/color/
20	住空間収納プランナー	一般社団法人 日本収納プランナー協会	http://jalo.jp/
21	ライフオーガナイザー	一般社団法人 日本ライフオーガナイザー協会	http://www.nspk.org/
22	インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)	一般社団法人 日本インテリアデコレーション協会	http://www.jida-ex.or.jp/test.html
23	住宅建築コーディネーター	厚生労働省認可財団法人 職業技能振興会	http://www.jkck.jp/
24	インテリアアテンダント	一般社団法人 日本インテリアアテンダント協会 一般財団法人 生涯学習開発財団	http://www.j-iaa.or.jp/
25	ベターライフリフォームアドバイザー	一般社団法人 ベターライフリフォーム協会	http://blr.or.jp/business/advisor.html
26	窓装飾プランナー	一般社団法人 日本インテリアファブリックス協会	http://nif.or.jp/window_treatment/index.html

表2 インテリアに関する資格の概要

	資格名	概要
1	建築士	国土交通大臣又は都道府県知事の免許を受け、一級建築士、二級建築士、木造建築士の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者
2	インテリア設計士	生活者が安全で快適な住生活ができるよう、インテリアに関する計画・設計並びに生産・施工・監理技術を身につけた技術者
3	商業施設士	生活者が日常利用しているあらゆる商業施設の、運営管理システムや店舗の構成・デザインなどを総合的に計画し、監理まで行なう優れた専門家
4	照明コンサルタント	照明に関する専門的な知識を体系的に持ち、ランプ、器具、配線、光のデザイン、光学的判断に対して十分な経験を持ち、照明の分野に関する質問に答えたり、照明計画や器具デザインなどの具体的方法を指導する立場の人間
5	インテリアコーディネーター	インテリアや住宅や商品に関する幅広い知識・専門的な技術などを駆使し、家具やカーテン、照明等の商品をトータルにプロデュースする人
6	インテリアデコレーター (ID＝内装士)	「室内装備の企画・設計・施工管理」「インテリアの企画・設計・インテリアコーディネート」「防災・防火・法令遵守の責任施工」「室内環境の安全性に配慮した施工」「インテリアコンサルティング」といった知識・技術、能力・経験を有する人材
7	DIYアドバイザー	住まいの手入れ、補修、改善等を自らの手で行ない、快適な生活空間を創造したいと願う生活者を対象に、DIYの指導・相談にたずさわる人
8	増改築相談員	住宅リフォームに関する技術的な知識と消費者からの相談に必要なコミュニケーション能力をあわせもち、これから住宅のリフォームを考えている消費者からの相談に誠実に対応する人。また、消費者の要請に応じて、住宅リフォームの具体的計画や見積もり等を行う。
9	インテリアプランナー	インテリアプランニングにおける企画・設計・工事監理を行うインテリアに関する知識と技術に習熟した専門家
10	キッチンスペシャリスト	家の中でも重要なキッチンまわりを中心に生活者のニーズに合わせて、キッチン空間・機能・設計・施工の知識を活かし、快適で使いやすいキッチン空間を提案するアドバイスを行う人
11	色彩検定	従来から「感性」だけによるものと見られがちであった「色に関する知識や技能」を理論的、系統的に学ぶことにより、「理論に裏付けられた色彩の実践的活用能力」を身につけた人
12	マンションリフォームマネージャー	主としてマンションの専有部分のリフォームにおいて、居住者の要望を実現するために、専門知識をもって、管理組合や、施工者などと協力・調整しながら、居住者に付加価値の高いリフォームを企画・提供するための業務推進能力を持つ人
13	色彩士検定	「実践」に生かせる色彩能力を身につけた人材
14	ライフスタイルプランナー	住まいづくりを通じて、理想の暮らし方を提案する人材。欧米諸国の快適なライフスタイルを提案できる優れた人材
15	福祉住環境コーディネーター	高齢者や障がい者に対し、できるだけ自立しやすいきと生活できる住環境を提案するアドバイザー。医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身に付け、各種の専門家と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示する。
16	整理収納アドバイザー	家庭及び小規模事務所の整理及び収納のノウハウを身につけ、指導アドバイスする人
17	TALK食空間コーディネーター	食空間のプロ、スペシャリスト。
18	リビングスタイリスト	店頭で商品の魅力を説明するだけでなく、お客様のライフスタイルを把握し、最も適切な提案を行う能力を持っており、高い顧客満足度を実現する人材
19	カラーコーディネーター	色の性質・特性など、色彩の知識を身につけ、色の持つ効果をビジネスシーンに活かすことができる人
20	住空間収納プランナー	「整理収納の概念」「整理収納の必要性」「環境との密接なかわり」などを深く理解し、個々の生活スタイルに合った快適な生活空間を総合的にプロデュースする能力を身につけた人
21	ライフオーガナイザー	空間や暮らし、人生を俯瞰し仕組み化する技術(ライフオーガナイズ)を多くの人に広め、実際にサポートしていく専門家
22	インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)	日本独自の文化や伝統を理解し、個人個人のライフスタイルや時代に合わせたさまざまな空間を構成・演出する専門家
23	住宅建築コーディネーター	家づくりに関するすべての流れを把握し、資金・不動産・設計・施工などの住宅建築に必要な専門分野を繋いで、お客様の家づくりを叶える人。住宅建築についての流れや、どこでどんな手続きが必要かなどの道案内をし、お客様が分からない部分を理解しながら家づくりが進められるようサポートする。
24	インテリアアテンダント	お客様が住まいに対する「思い」や「気持ち」を目に見える形で表現し、専門家に確実に伝えるための知識、技能を伝えることでお客様をサポートする人
25	ベターライフリフォームアドバイザー	住まいの性能を向上させることで、いつまでも安心・安全、快適で便利な暮らしと、住まいの長寿命化を実現する「ベターライフリフォーム」を提案する人。お客様の住まいに対する要望を整理し、最適なリフォームプランを提案する。
26	窓裝飾プランナー	カーテンやブラインド等の多彩なアイテムの中から、お客さまのニーズやライフスタイルに合った窓裝飾を提案・販売する専門家

イン、接客、販売等に携わる資格を、可能な限り幅広く書籍やインターネット検索などにより収集し、26種類の資格を選定した(表1)。

なお、インテリアの建材や施工等の専門的な技術等の認定・資格もあるが、それらは今回の調査対象から除外した。

(2) 調査内容

選定した26種類の資格のホームページより、資格の概要や資格制度の設立経緯等についての整理をおこなった。まず、資格の概要から資格取得者に求められる専門職像を整理した(表2)。資格制度の設立経緯については、その詳細が掲載されている資格と掲載されていない資格があった。資格によりホームページから収集できる情報量には差があったが、今回の調査では各資格のホームページから得られる情報のみを正式な情報として収集・整理した。

さらに、各資格の受験資格や試験内容、合格者数等についても比較・分析をおこなった。

合格者数などの数値データについては、詳細に公表されている資格と公表されていない資格があったので、公表されている数値のみを対象として分析をおこなった。

3. 資格設立の変遷(表3)

今回、調査対象とした26種類の資格について、各資格が誕生した年を表3にまとめた。

(1) 「建築士」の誕生(1951年)

インテリアに関する資格のうち、最初に誕生した資格は「建築士」である。建築関係の技術者の資格を定め、業務の適正化をはかり、建築物の質の向上に寄与するために、1950(昭和25)年に「建築士法」が制定され、翌1951(昭和26)年に「一級建築士」と「二級建築士」が誕生した。

「一級建築士」は国土交通大臣の免許を受け、「一級建築士」の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者であり、「二級建築士」は都道府県知事の免許を受け、「二級建築士」の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者である。いずれも国家資格であり、設計業務とその工事監理業務についての業務独占が与えられている。現在は「公益財団法人建築技術教育普及センター」が国土交通大臣及び全国の都道府県知事の指定を受け、指定試験機関として建築士試験を実施している。

(2) 「室内装備設計士」の誕生(1958年)

1957(昭和32)年に発足した「全日本室内装備設計士協会連合会(現:一般社団法人日本インテリア設計士協会)」は、翌1958(昭和33)年より「室内装備設計士」の資格認定を開始した。日本における初めてのインテリアに関する専門資格が誕生した。この時点では「インテリア」という言葉は使われておらず、「室内装備」という表現が使われている。「インテリア」という言葉が定着し始めたのは1980年代になってからであり、「室内装備設計士」も1984(昭和59)年に「インテリア設計士」へと称号を変更している。

(3) 「商業施設士」の誕生(1974年)

1950年代後半から1960年代の日本の高度経済成長に伴い、都市商業が発展し、商業施設の建設需要も高まり、全国各地に百貨店等が増加していった。商業施設に関わる技術者も増大し、活躍の場が広がった。しかし、1972(昭和47)年に大阪千日前デパート、1973(昭和48)年に熊本市大洋デパートで大規模火災事故が発生したことで、商業施設の建物に対する問題が明るみになり、建築基準法や消防法の改正が実施されることになった。それと同時に、専門的な商業施設技術者の社会的責任が問われるようになり、その育成が急務となった。そこで、1973(昭和48)年に「全国商業施設関係団体連合会(現:公益社団法人商業施設技術団体連合会)」が設立され、専門技術者の技術向上と社会的責任を明確化するために、「商業施設士」の資格制度が発足した。

(4) インテリアに関する専門資格の増加(1980年代)

高度経済成長期には、住宅も大量供給された。1968(昭和43)年の住宅統計調査において、住宅戸数が世帯数を上回り、この時点で住宅の量的な不足は解消された。しかし、住宅の質には数多くの問題があったため、その後も質的な問題解消のために住宅供給は継続された。1980年代になると、ようやく住宅の質や広さはある程度の水準まで満たされていった。

以降、住宅の質の向上が求められるようになり、さらには多様化するライフスタイルへの対応が求められる時代へと向かった。また、大量供給された住宅のリフォームへの対応も必要不可欠となり、リフォーム市場が注目されるようになった。それらに対応するための専門家の需要が高まり、インテリアやリフォームに関する専門資格が数多く誕生した。

まず、1983(昭和58)年に「インテリアコーディネーター」の資格制度が発足し、以後インテリアに関する代表的な資格として認知されていくことになった。インテリアや住宅の商品に関する幅広い知識・専門的な技術などを駆使し、家具やカーテン、照明等の商品をトータルにプロデュースする職能が求められる資格である。

1987(昭和62)年には「インテリアプランナー」の資格制度が発足した。インテリアに関する知識と技術を習熟し、住宅やオフィスから公共施設等すべての建物のインテリアプランニングにおける企画・設計・工事監理を行うことができる職能が求められる資格である。

「インテリアコーディネーター」は経済産業省所管の「公益社団法人インテリア産業協会」が試験を実施し認定する資格である。それに対し、「インテリアプランナー」は国土交通省所管の「公益財団法人建築技術教育普及センター」が試験を実施し認定する資格である。いずれもインテリアに関する専門資格であるが、求められる職能も所管する省庁も異なる。

さらに、1983年(昭和58年)に「インテリアデコレーター(ID=内装士)」の資格検定試験が開始した。「室内装備の企画・設計・施工管理」や「インテリアの企画・設計・インテリアコーディネート」、「防災・防火・法令遵守の責任施工」「室内環境の安全性に配慮した施工」「インテリアコンサルティング」といった知識・技術、能力・経験が求められている。これは、室内装飾工事を行う業者(内装仕上工事業)や室内装飾用資材および製品の販売、加工を行う事業者(卸業、小売業)で構成されている「日本室内装飾事業協同組合連合会」が実施している資格制度である。

リフォームへ目を向けると、1983年(昭和58年)に「DIYアドバイザー」の資格試験が開始された。住まいの手入れ、補修、改善等を自

表3 インテリアに関する資格設立の変遷

名称	終戦															東京五輪										オイルショック									
	1940年代					1950年代										1960年代										1970年代									
	1940	1941	1942	1943	1944	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974					
1 建築士																																			
2 インテリア設計士																																			
3 商業施設士																																			
4 照明コンサルタント																																			
5 インテリアコーディネーター																																			
6 インテリアデコレーター(ID＝内装士)																																			
7 DIYアドバイザー																																			
8 増改築相談員																																			
9 インテリアプランナー																																			
10 キッチンスペシャリスト																																			
11 色彩検定																																			
12 マンションリフォーム マネージャー																																			
13 色彩士検定																																			
14 ライフスタイルプランナー																																			
15 福祉住環境コーディネーター																																			
16 整理収納アドバイザー																																			
17 TALK食空間コーディネーター																																			
18 リビングスタイリスト																																			
19 カラーコーディネーター																																			
20 住空間収納プランナー																																			
21 ライフオーガナイザー																																			
22 インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)																																			
23 住宅建築コーディネーター																																			
24 インテリアアテンダント																																			
25 ベターライフリフォームアドバイザー																																			
26 窓装飾プランナー																																			

らの手で行ない、快適な生活空間を創造したいと願う生活者を対象に、DIYの指導・相談に携わる職能が求められる資格である。1985年(昭和60年)には、「増改築相談員」の資格制度が開始した。住宅リフォームに関する技術的な知識と生活者からの相談に必要なコミュニケーション能力が求められる資格である。これらは、リフォーム市場の活性化や生活者の住まいへの意識の高まり等を背景として誕生している。

(5) 多様化する資格(1990年代以降)

1990年代になると、インテリアショップが数多くオープンする等、生活者のデザインやインテリアへの関心が高まっていったこともあり、多様な専門資格が誕生した。例えば、色に関する理論的な知識や技能を身につけるための資格として、1990(平成2)年に「色彩検定」、1997(平成9)年に「色彩士検定」が開始された。

また、少子高齢化が進み、高齢者や障がい者に対し、できるだけ自立し、いきいきと生活できる住環境を提案するアドバイザーとしての職能が求められる資格として、1999(平成11)年には「福祉住環境コーディネーター」が誕生した。

21世紀に入ると、豊かな時代が続いたことにより多くのモノに囲まれ、さらに溢れる時代となった。身のまわりのモノが増えるにつれ、モノをコントロールすることが難しくなり、住宅では収納が常に問題として挙げられるようになった。2000(平成12)年に発刊された『「捨てる!」技術⁶⁾』はベストセラーになり、メディアで収納がテーマとして取り上げられる機会も増えた。そこで、収納に関する専門資格も2003(平成15)年に誕生した「整理収納アドバイザー」を皮切りに、複数の資格が誕生し始めた。

(6) 生活者視点で捉える資格(2010年代)

昨今、ライフスタイルはさらに多様化し、かつ、インターネットをはじめ様々な媒体から情報を自由に得ることができる時代となった。それと同時に情報過多となり、取捨選択が難しいこの時代だからこそ、専門家がいかに生活者の視点からアドバイスができるかどうかを求められる時代になった。

そこで、生活者の立場からアドバイスするための専門資格が誕生している。2011(平成23)年に誕生した「住宅建築コーディネーター」は家づくりに関わるすべての流れを把握し、資金・不動産・設計・施工などの住宅建築に必要な専門分野を繋いで、生活者の家づくりを叶えることができる職能が求められる資格である。2013(平成25)年に誕生した「インテリアアテンダント」は、住まいについて考えている生活者に専門家との円滑なコミュニケーションをとるために必要な技術と技能を伝えていくことができる職能が求められる資格である。いずれの資格にも生活者と専門家をつなぐ役割が求められている。

4. 資格認定方法の比較

(1) 受験資格による比較(表4)

①学歴・実務経験が必要な資格

資格取得に際し、学歴や実務経験が必要で、さらに試験に合格することにより取得できる資格は、「建築士」「インテリア設計士」「商業施設士」「インテリアデコレーター(ID=内装士)」の4種類である。いずれも学科及び実技試験があり、高い専門性が問われる資格であるといえる。

また、実務経験が必要で、さらに講習を受講して考查を受けることにより得られる資格は「増改築相談員」と「ベターライフリフォームアドバイザー」の2種類である。いずれも住宅

リフォームに関する知識と生活者とのコミュニケーション能力をあわせもつ人材を認定する資格である。

②年齢制限のある資格

年齢制限のある資格は「DIY アドバイザー」「インテリアプランナー」「住宅建築コーディネーター」「ライフスタイルプランナー」「イン

テリアデコレーター（インテリアデコレーション エクセルシアー）」の5種類である。

「インテリアプランナー」は試験合格後に登録するためには、学歴や実務経験等が必要である。

「ライフスタイルプランナー」と「インテリアデコレーター（インテリアデコレーション エクセルシアー）」は、上位レベルの資格を取

表4 受験資格と資格認定方法

分類	資格名	レベル	受験資格	試験			講座・講習	
				学科	実技	その他	講座・講習	テスト
学歴や実務経験が必要	1 建築士	木造建築士	要件あり	○	○			
		二級建築士	要件あり	○	○			
		一級建築士	要件あり	○	○			
	2 インテリア設計士	2級インテリア設計士	要件あり or20歳以上	○	○			
		1級インテリア設計士	要件あり	○	○			
	3 商業施設士	商業施設士補	要件あり				○	
		商業施設士	要件あり					
	6 インテリアデコレーター(ID=内装士)		要件あり	○	○			
年齢制限	8 増改築相談員		要件あり				○	○
	25 ペーターライフリフォームアドバイザー		要件あり				○	○
	7 DIYアドバイザー		18歳以上	○	○	面接		
	9 インテリアプランナー		20歳以上	○	○			
	23 住宅建築コーディネーター		18歳以上	○				
年齢制限 上位資格は実務経験	14 ライフスタイルプランナー	基礎試験	18歳以上	○				
		上級試験	要件あり	○	○			
	22 インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)	2級	18歳以上	○				
		1級	要件あり	○	○			
年齢制限 上位資格は段階		EX	要件あり		○	論文 面接		
制限なし 上位資格は段階	4 照明コンサルタント	照明コンサルタント	要件なし				○	
		照明士	要件あり				○	
	16 整理収納アドバイザー	整理収納アドバイザー3級	要件なし				○	
		整理収納アドバイザー2級	要件なし				○	○
		整理収納アドバイザー1級	要件あり	○		研究発表		
		整理収納コンサルタント	要件あり	○		口頭試問		
		ハウスキーピングコーディネーター	要件なし				○	○
		整理収納アドバイザー2級認定講師	要件あり	○	○			
	17 TALK食空間コーディネーター	3級	要件なし	○			○	
		2級	要件あり	○	○			
	20 住空間収納プランナー	ベーシック	要件なし	○				
		エキスパート	要件あり	○	○			
		マスター	要件あり			論文 模擬講義		
	21 ライフオーガナイザー	ライフオーガナイザー2級	要件なし				○	○
		ライフオーガナイザー1級	要件あり				○	○
		MLO(マスター・ライフオーガナイザー)	要件あり				○	○
		COX(クローゼットオーガナイザー)	要件あり				○	
		MO(メンタルオーガナイザー)	要件あり				○	
		RO(レジデンシャルオーガナイザー)	要件あり				○	
		CLO(サートファイブ・ライフオーガナイザー)	要件あり				○	
	24 インテリアアテンダント	インテリアセルフアテンダント2級	要件なし				○	
		インテリアセルフアテンダント1級	要件あり				○	
		インテリアアテンダント	要件あり				○	
制限なし	5 インテリアコーディネーター		要件なし	○	○			
	10 キッチンスペシャリスト		要件なし	○	○			
	11 色彩検定	3級	要件なし	○				
		2級	要件なし	○				
		1級	要件なし	○				
	12 マンションリフォームマネージャー		要件なし	○	○			
	13 色彩士検定	3級	要件なし	○				
		2級	要件なし	○				
		1級	要件なし	○				
	15 福祉住環境コーディネーター	3級	要件なし	○				
		2級	要件なし	○				
		1級	要件なし	○				
	18 リビングスタイリスト	3級	要件なし	○				
		2級	要件なし	○				
		1級	要件なし	○				
	19 カラーコーディネーター	3級「アシスタント・カラーコーディネーター」	要件なし	○				
		2級「2級カラーコーディネーター」	要件なし	○				
		1級「1級カラーコーディネーター〔〇〇色彩〕」	要件なし	○				
	26 窓装飾プランナー		要件なし	○		論文		

得するためには段階を踏むことが必要である。さらに、「ライフスタイルプランナー」は上位レベルの資格を取得するためには実務経験が必要である。

③受験資格条件のない資格

受験資格条件がなく、年齢や性別、国籍、学歴、経験等を問わず誰でも受験することができる資格も多い。

等級のある資格の場合、上位レベルの資格は実務経験が必要であったり、段階を経ないと受験することができなかつたりする資格もある。これらの資格については、資格取得を段階的に進めていくことが、その専門知識のスキルアップにつながっていると考えられる。

等級がなく、受験資格条件のない資格は「インテリアコーディネーター」「キッチンスペシャリスト」「マンションリフォームマネージャー」「窓装飾プランナー」の4種類である。これらの資格は、受験すること自体の敷居は低いが、前者3種類の資格は学科及び実技試験があるため、一定の専門的技術が求められている。

(2) 資格認定方法による比較 (表4)

①実技試験のある資格

建築やインテリアに関する資格の場合、実技試験が実施されることも多い。設計やデザインの技術をはかるためには必要である。

また、「DIY アドバイザー」や「TALK 食空間コーディネーター」等の実技試験では、DIYの道具や材料を用いた具体的な作業や実際のテーブルコーディネートを実施する内容になっている。

②対面式試験のある資格

資格試験において、対面式の試験内容を盛り込んでいる資格は非常に少ない。対面式の試験

を実施することは、審査の手間や審査基準の明快さ等が問題になると考えられるが、利点も多いのではないだろうか。

「DIY アドバイザー」と「インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシア) : EX」では、面接が実施されている。人物を把握したうえで資格認定を行うことは、人物像を審査するという点から見ると、有益な点も多いのではないかと考えられる。

「住空間収納プランナー：マスター」では、模擬講義が実施されている。資格取得において、ロールプレイングを盛り込むことは、資格取得と実際の仕事を明快につなぐ方法になるのではないかと考えられる。

(3) 試験内容による比較

①インテリア全般に関する資格 (表5-1)

インテリア全般の内容を扱う資格には、企画・設計から工事管理まで実施するための専門性が重視されている資格と、幅広い商品等の知識を生かして空間や暮らしをコーディネートする専門性が重視されている資格、インテリアの専門家と生活者をコーディネートする専門性が重視されている資格に分類できる。

「インテリア設計士」「インテリアデコレーター (ID = 内装士)」「インテリアプランナー」は、企画・設計から工事管理まで実施するための専門性が重視されており、いずれもインテリア設計の実技試験がある。

「インテリアコーディネーター」「インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシア)」「ライフスタイルプランナー」「リビングスタイリスト」は、幅広い商品等の知識を生かして空間や暮らしをコーディネートする専門性が重視されている。「インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシア)」は日本の文化や伝統についての

表5-1 資格試験内容（インテリア全般）

資格名	レベル	手法	内容
2 インテリア設計士	2級インテリア設計士	学科試験	計画
			デザイン論
			インテリア史
			デザイン基礎
			インテリア計画
			室内環境
			インテリア材料
			構造・建築
			構造・インテリア
			構造・家具・造作
			生産
			装飾・装飾
6 インテリアデコレーター (ID=内装士)	1級インテリア設計士	学科試験	設備
			法規・法令
			実技試験
			企画計画
			表現技術
			論文
			実技試験
			表現技術
			設計・図面
			室内設備の企画・設計・施工管理
			インテリアの企画・設計・インテリアコーディネート
			防火・防火・法令遵守の責任施工
9 インテリアプランナー	1級インテリア設計士	学科試験	室内環境の安全性に配慮した施工
			インテリアコンサルティング
			コンセプトの作成
			インテリアバースの作成
			プレゼンテーションボードの作成
			積算書の作成
			工程表の作成
			インテリア計画
			インテリア設備
			インテリア施工
			インテリア法規
			建築一般
5 インテリアコーディネーター	1級インテリア設計士	実技試験	建築物における空間の使われ方、生活のイメージが判るようなインテリア設計
			一次試験
			インテリアコーディネーターの誕生とその背景に関すること
			インテリアコーディネーターの仕事に関すること
			インテリアの歴史に関すること
			インテリアコーディネーションの計画に関すること
			インテリアエレメント・関連エレメントに関すること
			インテリアの構造・構造と仕上りに関すること
			環境と設備に関すること
			インテリアコーディネーションの表現に関すること
			インテリア関連の法規、規格、制度に関すること
			二次試験
14 ライフスタイルプランナー	基礎試験	筆記試験	論文・プレゼンテーション試験
			ライフスタイルに関する知識
			インテリアに関する基礎知識
			ガーデニングに関する基礎知識
			輸入住宅に関する基礎知識
			コンサルティングに関する基礎知識
			住宅販売に関する専門知識
			住宅空間計画と作図の基礎知識
			上級試験
			筆記試験
			実技試験
			住宅空間計画と作図の基礎知識
18 リビングスタイリスト	3級	学科試験	販売知識
			商品知識
			2級
			学科試験
			販売知識
			商品知識
			1級
			学科試験
			2級・3級と同じ審査範囲及び時事問題
			空間の構成
			インテリアエレメント(インテリアの構成要素)
			インテリアの基礎
22 インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)	2級	学科試験	インテリアコーディネーションの基礎
			季節感の演出
			日本のもてなしのこころ
			日本の伝統文化と文様
			ウォールデコレーション
			色の持つ特性と心理効果
			家具の機能と用途
			カラーコーディネート
			テーブルコーディネート
			フラワーコーディネート
			西洋文化ともてなし
			生花とガーデニング
24 インテリアアテンダント	2級	認定講座	照明器具の種類と演出効果
			空間ディスプレイ など
			1級
			一次試験(学科試験)
			二次試験(実技試験)
			実技・論文・面接
			EX
			実技・論文・面接
			EX
			実技・論文・面接
			EX
			実技・論文・面接
24 インテリアアテンダント	2級	認定講座	空間演出とインテリアデコレーションの重要性／表現力2
			建築とインテリアの積み重ね など
			実践的な装飾技術と感性表現
			トレンドと得意分野を生かした創作力
			総合的な空間の提案
			応用力
			間取り図を見て平面的な読み取り方を理解します
			間取り図から立体的な読み取り方を理解します
			機能性を考え「自分仕様」でチェックできるようになります
			住宅模型を作ります
			自分で住宅のプランを作ってみます
			インテリアコーディネートボードを創ります
			情報の集め方
24 インテリアアテンダント	2級	認定講座	プロと信頼関係を築くために
			アテンダントとしての心構え
			インテリアの知識・情報収集の方法
			講習会開催の方法・アドバイス
			コミュニケーショントレーニング
			セルフビジョンのまとめと発表
			模範講座ロールプレイング
			模範講座ロールプレイング
			模範講座ロールプレイング
			模範講座ロールプレイング
			模範講座ロールプレイング
			模範講座ロールプレイング

表5-2 資格試験内容（リフォーム）

資格名	レベル	手法	内容
12 マンションリフォームマネージャー		学科試験	住宅建築に関する基本事項
			マンションの歴史に関すること
			マンションの計画に関すること
			マンションリフォームに関する基本事項
			区分所有法（標準管理規約を含む）、マンション管理適正化法、建築基準法（用語の定義、申請・手続き、一般構造、避難施設、耐火構造・準耐火構造・防火区画等、特殊建築物等の内装、建築設備）、住宅の品質確保の促進等に関する法律、建築士法、建設業法、消防法、建設リサイクル法、省エネ法、消費者契約法その他のマンションリフォームに関する法令等
			調査と診断、企画、見積と契約、施工管理、相談と紛争処理、資金計画、アフターケアその他のマンションリフォームのマネジメントに関すること
			工事内容と材料・施工に関すること
			住戸内各部のリフォーム
			一般居室、水回り等におけるリフォームの設計・施工に関すること
			マンションリフォームにおける高齢社会対応、シビックハウス対策、省エネルギー改修、防犯性の向上等に関すること
			設備のリフォーム
			住戸内設備と共用設備の基礎知識
8 増改築相談員		研修会	設備の経年劣化と管理・診断・清掃に関すること
			マンション設備システムを構成する設備部品（配管を含む）に関すること
			設備リフォームの設計・施工に関すること
			設計製図試験
			マンション専有部にかかるリフォームの設計図書の作成（平面図および留意事項説明）
			総論・相談・工事の進め方
			リフォームの種類、増改築相談員制度の趣旨、接客法、相談技術、積算・見積り、契約の方法、工事と検査等、アフターサービス、メンテナンス、保証など
			性能向上リフォーム等
			リフォームにおける工法上の基礎知識や耐震リフォーム、高齢化対応リフォーム、省エネリフォームの基礎知識、リフォームによるシビックハウス対策の方法など
			住宅の点検と補修
			住まいを長持ちさせるために、標準的な点検・補修の目安、部位別にみる点検と補修事例、住宅履歴情報など
			設備のリフォーム
25 ベターライフリフォームアドバイザー		登録講習	設備リフォームの種類、給排水衛生設備、冷暖房・電気・ガスなどの各設備のリフォーム手法、よくある設備リフォームの留意点など
			最近のトピック
			リフォーム市場の動向やリフォームの関連施策や制度など
			関連法規・制度等
			住宅リフォームに関連する建築関連法令、住宅に関連するその他の法令、制度など
			関連融資・住宅の税金
			リフォームローンの種類や住宅に係る税金の基礎知識など
			トラブル事例とその対応
			リフォームの相談状況、トラブル事例とその対応、リフォーム見積チェックなど
			介護保険における住宅改修・実務解説
			介護保険の支給対象となる住宅改修の工事種別や支給限度額、申請手続きなど
			考 査
7 DIYアドバイザー		一次試験（学科）	新規または更新研修内容からの出題による考査
			ベターライフリフォームアドバイザー登録制度の概要
			インフラリフォームに関連する法令・制度
			住まいの健康発見（住まいの健康診断の活用）
			顧客ニーズの把握（マイホームノートの活用）
			リフォーム提案等の作成
			アドバイザー支援ツール
			考査
			見積りトラブル事例
			住宅及び住宅設備機器に関する基礎知識
			DIY用品に関する知識
			DIYの方法に関する知識
		二次試験（実技・面接）	DIYの関連法規に関する知識
			1～4に掲げるものの他、DIYに関する基礎知識
			DIYに関する実技の能力
			DIYerの相談内容を正しく理解し、これに基づいて的確に指導助言を行う能力

表6 資格試験受験者数と合格率（2014（平成26）年度）

資格	受験者数	合格者数	合格率	備考
1 建築士				
木造建築士	558	223	40.0%	
二級建築士	24,033	5,842	24.3%	
一級建築士		3,825	12.6%	
3 商業施設士				
商業施設士	407	265		
5 インテリアコーディネーター	9,361	2,297	24.5%	
7 DIYアドバイザー	1,728	569	32.9%	
9 インテリアプランナー	464	103	22.2%	
10 キッチンスペシャリスト	975	338	34.7%	
11 色彩検定				
3級	27,457	19,218	75.7%	
2級	12,472	7,229	63.5%	
1級	1978	591	33.3%	
12 マンションリフォームマネージャー				
		164	33.1%	
15 福祉住環境コーディネーター				
3級	13,394	9,289	69.4%	
2級	28,328	11,412	40.3%	
1級	611	37	6.1%	
18 リビングスタイリスト				
3級	178	166	93.3%	10月実施
2級	756	562	74.3%	10月実施
1級	338	235	69.5%	2月実施
19 カラーコーディネーター				
3級	7,919	5,446	68.8%	
2級	4,070	1,605	39.4%	
1級				
第1分野 ファッション色彩	162	52	32.1%	
第2分野 商品色彩	229	106	46.3%	
第3分野 環境色彩	216	29	13.4%	
合計	607	187	30.8%	

知識が試験に組み込まれていることが特徴である。「ライフスタイルプランナー」は「一般社団法人輸入住宅産業協会」が実施している資格のため、欧米諸国のライフスタイルや輸入住宅の特徴についての知識が組み込まれている。また、「リビングスタイリスト」は販売やビジネスマナーについての知識が問われる。

「インテリアアテンダント」は、インテリアの専門家と生活者をコーディネートする専門性が重視されており、第三者的立場の専門家としてのコミュニケーション力を問われることが特徴である。

②リフォームに関する資格（表5-2）

「マンションリフォームマネージャー」はマンションの住戸内リフォームに特化した内容になっており、学科と実技試験により認定される資格である。マンション特有の法規・制度等の知識が問われる。

「増改築相談員」と「ベターライフリフォームアドバイザー」は講習会を受講し、考査を受けることにより認定される資格である。トラブル事例についての内容が組み込まれている点が興味深い。

「DIY アドバイザー」は住まいの補修や改善を自らの手で行いたいという生活者をサポートする資格であり、実技や面接を実施する試験内容となっている。

③インテリアの各分野に関する資格

インテリアに関する内容は幅広いため、ある特定の分野に焦点を当てた資格も多い。「商業施設士」「照明コンサルタント」「キッチンペシャリスト」「福祉住環境コーディネーター」「TALK 食空間コーディネーター」「窓装飾プランナー」といったように、焦点を当てる分野は様々であり、今後もこれ以外の分野に焦点を

当てた資格ができる可能性も大きいのではないだろうか。

「色」や「収納」については、各分野において複数の資格が誕生しているが、各資格の特徴や違いが分かりにくい。「色」に関する資格については、いずれも受験資格要件がないため、誰でも受験することができる。受験者数からみると、「色彩士検定」は公表されていないことから少ないのではないかと想定できるので、「色彩検定」が最も認知されていると考えられる（表6）。「収納」に関する資格については、いずれも等級や種類が多く設けられており、段階的に専門的知識を身につけることを推奨する資格制度になっているようである。

5. まとめ

今回の調査では、インテリアに関する資格制度を整理し、資格制度の変遷や資格認定方法等の比較・分析をおこなった。

設計・工事監理を実施するための専門資格「建築士」は国家資格であり、業務独占資格であるため、資格の位置づけが明快である。しかし、それ以外の資格については、省庁が所管する団体が認定する等の公的な側面の強い資格もあるが、資格がないと成立しない業務がないため、各資格の位置づけは曖昧である。

一般的にインテリアの専門家として名乗る場合に「インテリアデザイナー」という肩書が使われることが多い。しかし、「インテリアデザイナー」という資格はなく、実際には誰でも名乗ることができる肩書である。さらに、「インテリア」という用語を名称に用いた資格は数多くあり、それらの受験資格要件や求められる知識等も異なるため、どの肩書や資格を持つ人がどのような職能を持つ人材なのか、理解の難しい状況が生じていることがわかった。

資格試験合格率を比較すると、公表されてい

る資格のうち「インテリアコーディネーター」と「インテリアプランナー」の合格率は、いずれも「二級建築士」と同程度の2割強と難易度が高く、専門性の高い資格であることがわかる。しかし、合格者数を比較すると、「インテリアプランナー」は圧倒的に少ないため、「インテリアコーディネーター」と比較すると認知度が低いのではないだろうか(表6)。

今回の調査で、インテリアに関する資格の分析をおこなったことにより、各資格の特徴を整理できたが、試験内容や求められる職能が非常に酷似した資格が多いこともわかった。この分野の専門資格が年々増加しているなかで、資格が乱立することにより、資格というものに対する信頼性が低くなることが危惧される。

今後は、生活者にとってわかりやすく、信頼のおける専門家を探すことができるような資格のあり方と仕組みづくりが必要になるのではないだろうか。

本報告では、各資格のホームページで公表されている情報を元に分析・考察を行ったが、受験者数等が公表されておらず、運営実態が掴みにくい資格も多い。受験者数や合格者数が公表されていない場合は、その人数が少ないことが予想されるが、より詳しい情報を収集することにより、全体像をより明確に把握できると考えられる。

今後は、各資格制度に関連する省庁や法制度についてさらに詳しく把握することにより、各資格制度の設立の背景や求められる職能についての分析を進める。インテリアに関する専門資格の役割を整理することにより、生活者と専門家のより良い関係性を築くための手法を検証していく。

参考文献

- 1) 茂木弥生子：日本におけるインテリア関連の団体および資格についての一考察，駒沢女子大学研究紀要第21号，pp.59～72，2014
- 2) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアの捉え方に関する30～50代建築家へのインタビュー調査，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1分冊，pp.217～218，2015
- 3) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアの捉え方に関する50代以上の建築家へのインタビュー調査，日本インテリア学会大会研究発表演梗概集，pp.25～26，2015
- 4) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアに関する40代建築家を対象としたインタビュー調査，日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1分冊，pp.209～210，2014
- 5) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアの捉え方に関する若手建築家へのインタビュー調査，日本インテリア学会大会研究発表演梗概集，pp.59～60，2014
- 6) 辰巳渚：「捨てる」技術，宝島社，2000
- 7) 本田榮二：最新インテリア業界の動向とカラクリがよ～くわかる本【第2版】，秀和システム，2013
- 8) 三輪正弘：インテリアデザインとは何か，鹿島出版会，1985
- 9) 内田繁（監修）・鈴木紀慶・今村創平：日本インテリアデザイン史，オーム社，2013
- 10) 専門学校 ICS カレッジオブアーツ校友会：インテリアデザインの半世紀—戦後日本のインテリアデザインはいかに生まれどう発展したのか？，六耀社，2014
- 11) インテリアコーディネーターハンドブック[統合版]，公益社団法人インテリア産業協会，2013